

第6回
広島県東広島市
オペラ
「白壁の街」

ご当地

日本全国小学校

行事紹介

東広島市立西条小学校



今回紹介するのは、オペラ「白壁の街」です。酒どころとして長い歴史をもつ東広島市西条の「酒まつり」(毎年10月開催で、西条小学校の6年生が演じています。昭和56年から36年間、引き継がれてきたヒミツを探るため、今年の祭りが終了したばかりの西条小学校に伺いました。



伝統を受け継いで

「オペラ「白壁の街」の歴史を教えてください。」

昭和56年に、当時の本校の教職員によって創作されたものです。音楽担当の教員は、蔵人(酒造りに携わる職人の思いや願い、苦勞や喜びなどを音楽でどのように表現したらよいか、何度も酒蔵に足を運んで見学したり、お話を伺ったりして、イメージを膨らませて曲作りをしたそうです。

オペラは、酒造りの仕事に打ち込む蔵人たちが、米を蒸し、麴をつくって仕込み、酒ができたら祭りで祝うというストーリーで、東広島市の酒まつりで毎年上演されるほか、学習発表会や教育研究会でも披露します。

共に創り上げた「白壁の街」

西条酒造協会 石井さん



この「白壁の街」は、酒どころ西条のPRIにも大変役立っていますが、それ以上に子どもたちが心を一つにして成し遂げる達成感を感じてもらうことが大切だと思っています。演技が終わったあとの、子どもたちや先生方のすがすがしい表情や涙を流している姿を見ると、自分も胸が熱くなります。

36年間続いているこのオペラに関わる人間は世代交代をしていますが、酒造協会としてはこれからも当然フォローしていくし、続いていくことを願っています。

小学校での指導の実態

「どのように子どもたちに指導をしているのか教えてください。」

オペラには、その年の6年生が全員出演します。毎年行事なので、5年生は翌年は自分たちの出番だと楽しみにしています。6年生になったらすぐに役割分担を決めて、練習が始まります。

歌や楽器、身体表現など、それぞれの持ち場に応じて工夫し、自ら考えて練習をします。7月になると、「白壁名人」に指導を受けます。名人として、OBや地域、酒造協会にご協力いただいています。



「白壁名人」による指導

夏休みの練習は、暑さとの戦いですが、氣力を鍛えながら、一人ひとりの演技や演奏に磨きをかけていきます。こうして、練習の成果を本番にぶつけていきます。



普段の練習の様子

楽器・映像担当

かねさだ 兼定さんの作文

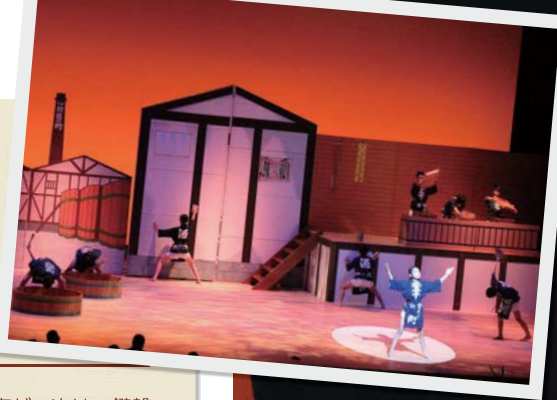
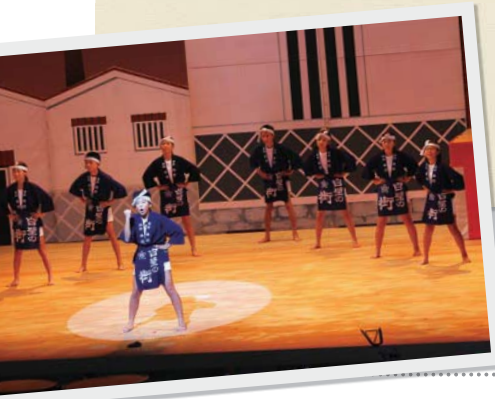
～初舞台で得た学び～

まず、大切なオープニングの映像の仕事だ。次は、鍵盤ハーモニカの演奏。いつでも誰かが見ているということ意識して演奏した。最後は踊り。自分に残っている全ての力を出し切って踊った。幕が下りたとき、私たちの胸には、言葉では表すことのできない感動が広がっていた。

観客席からの拍手は、練習のつらさや喜び、仲間と伴に助け合い、協力し合った日々を思い出させてくれた。

初舞台を終えて、36代目という伝統の重みを感じるとともに、ふるさと西条の素晴らしさを改めて実感し、誇りに思っている。また、自分たちにしかできない「白壁」を創り上げるために挑戦し続けてきたことは、私たち自身の誇りだ。これからも今の自分に満足せず、より高いものを目指して頑張っていきたい。

(作文の一部を紹介しています。)



一人ひとりが「主役」の演技

オペラでの役割は、どのように決めるのですか？

役割はオーディションで決めます。身体表現、歌、楽器、太鼓などに分かれます。希望がかなわない児童もいるため、そういう子どもたちへのケアも大切にしています。

このオペラは作品として誰もが主役になれるように構成されており、子どもたちの個性を生かせる場所が必ずあります。集団での演技であるため、一人ひとりがただ頑張ればよいのではなく、音楽や身体表現で呼吸を合わせながら、協調する力も育んでいきます。その年の6年生にしかできない「白壁」を創り上げ、一人ひとりが輝くのです。

地域との深い関わり

オペラ「白壁の街」と、地域との関わりを教えてください。

子どもたちが身につけている法被は、地元の酒造協会の寄贈品で、代々受け継がれています。また、舞台装置も協会から寄贈されたものです。

PTAの皆さんには、舞台セットの搬出や設置を始め、多くの役割を担っていただいています。36年も続いているので、親子2代で経験者という家庭もあります。

題材が地元の産業なので、3年生から5

年生までの「総合的な学習の時間」を通して、酒造り文化への理解を深めています。また、オペラには、地元の仕事歌や祝い唄、踊りがふんだんに盛り込まれており、子どもたちにとっては地域に対する愛着につながります。

心が一つになったオペラ「白壁の街」

東広島市立西条小学校

6年生担任 横田優美先生

今年の2月15日に、昨年の6年生から「白壁」を引き継ぎました。それ以来、全員のつながりを意識した練習を行ってきました。どの児童も熱い思いとこだわりをもって表現できるようにと、担当の教職員全員で熱い指導の毎日でした。

一方で子どもたちは、自分が設定した課題に挑戦する日々でした。どんどん上達していくことが嬉しく、また、達成感を感じていました。

今年で36代目となる6年生171名の、一つになった「心」を是非、11月29日の教育研究会でご覧ください。

酒まつりでもオペラは大注目。開演前から長蛇の列。

